

第3回ゼロ・ウェイスト円卓会議議事録

出席者／宮北・藤本・永野・高岡・小里・嘉松・桑畑・道上
事務局／田畑・岩下・久木田・川本・坂本・池崎

1 進行役の決定→永野

2 ゼロ・ウェイスト行動計画の見直しについて

事務局からの作業部会案を提示

- ① ゼロ・ウェイストのまちづくり水俣宣言の推進（全体で）
- ② 燃やすものの組成調査・資源ごみステーション調査の実施
- ③ 情報公開（イベント企画・情報の整理及び提供）

⇒ 全体で前回のワークショップのまとめを行いながら、今後の取組内容について検討したほうがよいのではないか。

⇒ 2月6日（月）に時間をかけてワークショップを実施・検討

<意見等>

- ・何をいつまでにしなければならないのか期限を決めた方が良いのでは？
また、この3つで良いのか？
- ・組成調査はあまり意味がないのでは？何度かやっているが比率がそんなに変わらない。
- ・人数が多いからというのは分かるがあまり細分化すると、仕事が忙しく参加できない人もいるだろうから議論が進まないのでは？
- ・メンバーは全体を把握していた方が良い。細分化は好ましくない。
- ・それぞれにテーマがあって作業を分担するのならともかく、結局はすべてがゼロ・ウェイストという同じテーマにつながるのだから作業部会という形はそぐわないのではないか。
- ・それよりも前回の会議でも出た今ある問題について議論を深めた方が良い。
- ・（合同会議の）報告がきれいにまとめられすぎていて「しなければならない」という感じを受ける。それはなんか違うかなと。
- ・細分化するより、前回の会議で話したデータの読み方や情報公開の仕方等そちらを優先的にやった方が良い。
- ・ゼロ・ウェイストには有識者がいないのだから、自分達で何でもできるのが利点。葉山に行くとか講師を呼んで勉強会をすとか。（葉山町長交代）
- ・KJ法（仲間分け）をみんなで作ってみる。グループ分けして名前を付けると親しみがわく。
- ・情報整理が大事。プロ（コンサル）が作る資料の見方が分からない。

- 燃えるごみの半減袋は良い。早く夏子さんに来てもらわないと。こういう会議は「やりたい」という気持ちが大事。そうでないと続かない。
- 次回、行動計画について時間をかけてワークショップを行い、決定する。

3 環境モデル都市フェスタへの出展内容について

- 1 回目が市民に伝わらない部分が多かったので、去年はがんばって8月頃から準備を進めてきたが震災の影響で中止せざるを得なかった。
- 推進委員会では3月 11 日で進めていたと思うが、今回4日に合同会議と同時開催が決定したということで、何ができるかを考えないといけない。
- 各円卓会議が出展すると言うが、昨年とは組織自体が変わっている。
- 環境大学円卓会議ではまったく触れておらず、メンバーはフェスタの存在自体知らなかったらしい。
- 他の円卓会議が何をやっているかも知らないし、これから盛り上げていこうという気持ちを作るのは時間的になかなか難しい。
- 設定に無理がある。二兎を追うものは一兎も得ず。会議をしている隣で催しとは変な感じ。市民が楽しめない。
- フェスタや円卓会議に参加する関係団体のためのフェスタなのか、それとも市民に周知するためのものなのか。市民に周知するためであれば、イベントの企画段階から市民にも参加してもらい、関心を高めてもらう等の工夫が必要。
- フェスタは決定なのか？この日程ありきで出展内容についてのみ議論すべきなのか？またはここで日程・方法等意見して反映されるものなのか？
- 第2部については合同会議の「打ち上げ」感はぬぐえない。
- 専門委員にフェスタを見せることが目的になっていないか？市民に見せるべきであるのにこれでは逆効果。止める勇氣も必要。
- 推進委員長・副委員長はこの日程でOKを出したということだが、トップだけで決めるべきではない。委員みんなで議論すべき。
- フェスタの日程については、推進委員会のなかで第2週目の開催という話だった。3月4日に開催するという提案もあったが、そのことについて委員みんなで議論まではできていない。
- 4日だろうが 11 日だろうが中身は変わらない。むしろ合同会議後に遅らせた方が良い。なんのためのフェスタか分からない。
- 次回の合同会議は3時間半あるようだ。それを市民がずっと聞いているのは辛い。
- この円卓会議でも新たなアイデアが出てきていることだし、延期した方が市民にも知ってもらえる機会が増える。そちらにエネルギーを使いたい。

- ・フェスタ日程は推進委員会だけでなく合同会議に諮ったらどうか？
- ・やるならちゃんとやりたいし、市民にもちゃんと知って欲しいから無理に3月に持ってこなくても良いのでは？
- ・一案としてフェスタの中で、市民が主役の「市民合同会議」をやるのも面白い。そこに専門委員の先生に入ってもらって。

→（事務局）

1日時間をいただきたい。明日の庁議及び推進委員会で再度日程について諮りたい。結果をお知らせする。

4 ごみ処理単価及び持ち込み手数料について

- ・1896円／30kgの意味が分からない。

→（事務局）広域の手数料が310円／30kgのため、分かりやすいよう単に30倍掛けただけ。

- ・現状は分かったが、この資料をどのように活用すべきか？数字読み解き部会が必要かも。

- ・今日コンサルが来ていないのが気になるのだが、廃棄物処理基本計画については、もう市民の意見は聞いたということで進めているのか？普通計画を作るときは市民の意見を聞きながら1年位かけて作るものだが。

→（事務局）大体出来ている。次回の会議で諮る予定。

- ・可燃ごみの処理に経費がかかるわけだから、ごみを減らすことが市民の負担を減らすことになると思う。有料化がいいことなのか分からないが、それも含め考えないといけないのでは？

→（事務局）ごみを減らしてもガス化溶融炉の維持費がかかるため処理費は変わらない。現在は1市2町で経費を按分しており水俣市分のごみが減ると他の2町の負担が増える。

→（メンバー）そうならば、焼却炉の建て替えを含めて議論をする必要があるのではないか。建て替えまではどのくらい時間があるのか？それまでに議論していきたい。

→（事務局）あと7年で減価償却となる。

- ・田中商店の中間処理施設が議会で否決された件について、市民は何も知らなかった。このような会議でも、前回出た様々な意見が議事録には残るがまったく議論がなされないことが多々ある。市民が知らないところでどんどん物事が進んでいくのは、このような会議が軽視されているということ。もっと市民に情報を流して議論する機会を提供すべき。
- ・こういう会議が成熟して市民の理解が深まり、不買運動等によって少しずつ企業に訴えていくのが理想だが時間がかかるのは否めない。

- 円卓会議の計画にかかわることでもある震災がれきの受入についての話を一度もしていない。
- 行動計画にも何らかの形で取り入れていかなければならないのでは？
- 次回は KJ 法を使ったワークショップを予定。基本計画に少しでも生かしてもらいたいので早めの開催を。→2月6日（月）14 時～